

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202171		
法人名	社会福祉法人三省会		
事業所名	グループホームやまずみ荘		
所在地	長崎県佐世保市山祇町388番地		
自己評価作成日	評価結果市町村受理日	平成24年3月21日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do">http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成24年2月22日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>「業務優先ではなく入居者に寄り添った支援を行う」と目標に掲げて、今まで以上に行事計画を行い、地域との関わりとして、他の事業所との連携をすることにより、アルバム作り、年賀ハガキ作成、職員手作りの福笑い、晴れ着撮影、ドライブ等、笑顔で暮らせるように支援を行った。</p>
--

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>23年11月、グループホームやまずみ荘には、ショート、小規模、認知デイ利用の方が集い、「じゃんけん大会」が行われた。ご利用者の心身状況に応じて「じゃんけんカード」も作られ、皆さんが参加できる工夫も行われた。大きな声で笑い、じゃんけんのために手を上げる動作を繰り返す中で、その後のご利用者にも変化が見られ、次の大会に向けて練習をしている姿も見られた。職員のアイデアは豊富で、22年2月から行われている、ご利用者毎の「ほめノート」も継続されており、「ほめノート」の記入を始めてから職員の優しさが増し、更には「ほめノート」にご本人も書いて下さるようになった。次第に文字の練習に繋がった方もおられ、1つのアイデアが次なる良い効果となって表れている事を職員も嬉しく思っている。年賀ハガキを初めて書いて下さった方もおられ、その言葉は「ありがとう」だった。その言葉の深みに職員も感動を頂き、その年賀状を頂いた家族からも「もの凄く嬉しかった」と言う言葉を頂いた。職員全員が力を合わせ、まさに「家庭的な雰囲気の中で自立し、やすらぎのある生活を送っていただけるよう努めます」という理念の実践が日々行われているホームであった。</p>
---

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム内に、理念と入居者職員の“願い”を掲げている また、年度初めに年間、月間目標を決め、毎月会議を開催し理念を共有して実践に努めている	“地域の協力のもと安心して生活のできる暮らしをめざす”という理念のもと、“みんなで楽しむ”ことを大切に、行事の企画や他セクションの交流企画も楽しませてきた。職員は、ご利用者が感じておられる不安を知り、それを取り除くためにはどのような支援が必要なのかを常に念頭に置き、日々の支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事(神社の夏祭り、公民館祭り等)の準備に加わったり、市民大清掃に参加している。近所のスーパーの買い物に行き顔なじみの方との交流を支援し、近郊の学校の社会課学習や体験学習の受け入れを行い、入居者と生徒の方々との交流を支援している	隣の小学校から招待状を頂き、小学校の冬フェスタに参加することができた。剣玉やコマ回しなどを小学生と楽しまれ、ご利用者からも“童心に戻った”と言う感想が聞かれた。小学生の社会科見学や中学生の職場体験の受け入れも続けており、地域のお祭り等は準備から関わり、地域の一員としての活動を続けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護教室や認知症についての勉強会を開催し参加して頂いている 他事業所と連携して、じゃんけん大会等を通して活動内容を知っていただいている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームでの取り組みや、行事内容、研修参加等を報告している また、家族や入居者から要望や意向を聞きサービスの向上に努めている	23年5月から、小規模多機能、認知デイ、在宅のケアマネなどの参加もあり、意見交換を行っている。ご利用者も参加し、「私の席はどこね」と言って下さるなど、その場を楽しんで頂いている。「ホームで市民大清掃に参加してみたい」といった意見を頂き、参加する事ができたり、災害対策の話し合いも行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	奇数月に、行政からの情報、指導を受けながら運営推進会議を開催している また、感染予防に関する講義等を行ってもらい、サービスの向上に取り組んでいる	管理者が中心になり、運営推進会議の案内や報告書を市の窓口に届けており、ホームの状況も報告している。23年度、運営推進会議に、毎回市の職員が参加して下さい、研修参加状況や行事内容を報告し、ホームの取り組みを理解頂けるようになった。「ドライブに行かれて良いですね」などのお褒めの言葉を頂いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修に参加し、研修報告を行い、身体拘束廃止推進委員会を設置して全職員身体拘束をしないケアの継続に取り組んでいる	委員会では“何が身体拘束になるのか”を考えており、点滴を抜去する方も手の届きにくい場所から点滴を行い、帰宅願望の強い方には自宅で過ごせる時間を作るなど、ご本人の思いを大切にしたい支援が行われている。エレベーターは防犯上暗証番号になっているが、併設の施設経由で外出できる構造になっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し研修報告を行い、入居者に対する言葉使いや態度に留意し尊厳の保持に努め、入居者家族と交流会を開催し親睦を深め信頼関係の構築に努めている		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度の説明会や成年後見制度に関する研修に参加し、制度について学ぶ機会を持ち研修報告を行うと共に、家族への情報提供を行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設内の見学、契約書、重要事項説明書、同意書等入所前に説明し、理解納得されてから入所されている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時、ケアプランの更新時の説明時、運営推進会議、家族交流会等家族からの意見要望等お聞きする機会を設けている。年一回家族アンケートを行い、意見要望に対して話し合い対応を行っている	家族アンケートを行うと共に、家族の面会時には職員から「何かありませんか？」と伺い、意見は記録に残している。「外出(ドライブ等)をしてほしい」という要望があり、家族交流会として九十九島動植物園にお弁当を持ってドライブに出かけた。管理者も一緒に意見を検討し、改善に向けた取り組みが行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営会議にて各事業所の主任との会議を開催したり、事業所のセクション会議を毎月設けて意見交換を実施している。	会議の場や毎朝のミーティングで職員同士で意見を出し合っており、日頃から管理者にアイデアを伝えている。職員のアイデアが活かせるようにしており、“みんなで楽しむ”ことを大切に、他セクションとの交流なども行われた。排泄ケアのアイデアもとことん検討されており、職員毎の得意分野を發揮して頂いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与規程で新規に資格を取得した者は、資格に応じて給与が上がるように制定されている。業務内容を分担して全部の職員がレクリエーションや行事等の提案が出来るようにしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	講習会参加を積極的に情報を流し団体主催の講習会へ積極的に参加するようにしている。施設内研修は同じ他の事業所職員の研修会があるので勤務を融通しあって参加している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月のセクション会議やケース会議に参加し意見交換を行っている 毎朝の朝礼には参加して意見交換を行うようにしている		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所される前に、本人、家族から健康、生活面等の情報を集め、全職員で話し合い安心して生活できる様に、信頼関係を築きながら支援している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族に安心して頂く為にも、面会に来られた時には近況報告を行っている 家族の思いを考え、信頼関係を築いていきます		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に利用されている他事業所より情報を頂き支援の方法を話し合い、受け入れ時戸惑わないようにしている 対応出来ない時は、併設の事業所と連携を図るようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者が出来る事、出来ない事を把握した上で本人に合った見守りやお手伝いをしてもらい、ADL、IADL出来る事を伸ばすように努めています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の多い家族が半数以上おられるので、毎日の行動や思いを説明し意見交換を行っている 本人の気持ちを大切に、家族と情報を共有している 面会の少ない家族へは、事あるごとに電話連絡を行っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の家へお連れしたり、周辺にドライブへ行ったりしている 買い物へも近くのストア等へ行き、顔見知りの方がいると会話の時間を作ってもらっている	町内の活動がある時は、その町内に住んでおられた方をお連れする等、馴染みの関係が途切れないようにしている。 希望に応じて自宅へお連れするなど、それぞれのご利用者に応じた支援を行っている。お正月の年賀ハガキを初めて書いて頂き、年賀状をもらった家族からも「もの凄く嬉しかった」と言う言葉を頂いた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	午前中、脳トレーニングの時間に一人ひとり能力に合った事を行い、皆さん一緒に過ごしている 部屋で過ごす方が少なく、廊下に椅子、ソファを設置し入所者同士の会話ができる様にしている		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時は入居者と一緒にお見舞いや家族との連絡を取り合っている また、他事業所へ移られた時は会いに行ったりしている 死亡退所時は葬儀参列や初盆参りを行っている		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人らしい生活をして頂くために、入所者とゆっくり話をする時間を作っている。ケース記録にも、いつ、どうした、何を言ったと細かく記入し職員がすぐに判断出来る様になっている 情報、朝の申し送りを一冊ファイルに綴じ込み情報を共有している	22年2月から、ご利用者毎に「ほめノート」を作り、ご利用者に記入した内容を伝えており、ご本人にも喜んで頂いている。ご利用者への「ほめノート」の記入を始めてから、職員も更に優しくなり、ご本人が「ほめノート」書いて下さる方もおられ、そこから文字の練習に繋がっている方もおられる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や知人による生活歴の情報を取り、話の中で趣味や地域の話聞き、暮らしの中でも淋しくないように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前の生活は個別性があり、ここでは入浴、食事時間等決められた業務の流れにそってしまふところがある。職員間で話し合い業務の効率化を行い、個別の暮らしができる様努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者を中心に、職員及び本人家族と連携を図り、独自のアセスメントシートを活用し、地域との交流もプランに反映させている。具体的援助内容は、個人のケース記録に記入し、変更が必要な際にはその都度書き込み、誰でも分かる様にしている	計画は、ご利用者や家族の意向を盛り込み、ご利用者の言葉を用いながら、わかりやすく表現されている。ケアマネが作成した計画の原案を職員全員で検討し、主治医や理学療法士の意見を頂きながら作り上げている。洗濯物たたみや廊下掃除などの役割や、散歩や家族との交流などの楽しみも盛り込まれている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録には、日勤者、夜勤者で職員全員が記録し個人ごとのケースに伝達事項を記入し、職員間で徹底させている 介護目標表にそって、職員間で統一した支援を行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携機関体制により、医療機関とは連絡可能であり、入院中の様子を見ながら、早い時期に慣れた環境に戻す為の早期退院の受け入れもできる様にしている。 災害時の地域の避難場所の要請があれば、受け入れる様にしている		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	十日恵比須、夏祭り、公民館祭り、小学校での催し物、花火見物等職員付き添いのもと積極的に参加している 他の事業所で行われている月1回の華道教室への参加も行っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の看護師の訪問や嘱託医の往診を受けているので、医療の相談をする事が出来る 専門外の医療については、受診の支援を行っている	看護師が毎日ホームを訪問しており、職員はご利用者の状況を細かに観察し、報告している。協力医の往診が週1回あり、往診以外の日も職員から協力医に直接相談できており、受診結果は家族に報告している。法人内の看護師(7名)にはオンコールで24時間来て下さる体制もあり、職員の安心になっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師に状態報告を行い、健康管理の支援を行っている 看護師指示にて受診時は、家族へ連絡送迎を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関との連携により、情報提供及び連絡を行っている 面会や家族への連絡などで状態把握に努め、主治医との相談も行うよう努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期をホームで過ごせるよう、酸素の設備等あることを利用者、家族に説明し看取りの同意を頂いている。24時間の医療機関との連絡、夜間帯のオンコール体制を取っており、日々の利用者の変化、情報を医師、職員、家族と共有し、その都度今後の方針を家族と話し合っている	ご利用者が重度化された場合は、日々のご利用者の情報を共有し、家族、医師、関係者との話し合いを続けている。終末期には、看取りについて家族に説明を行い、意向を伺っており、21年、ホームで初めて看取りケアが行われた。食事が減り、IVHになられた方にも、看護師と連携し、食べたい物だけでも食べて頂くように努めており、家族も食事介助をして下さっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師や委員会による勉強会へ参加し、内容を職員間の情報として共有し、確認を行っている また、夜間緊急時の連絡、対応マニュアルを電話の横に掲示している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火マニュアルによる昼夜を想定した年3回の防火訓練と、年1回の消防署の指導による訓練を行っている。災害発生時は緊急連絡網により、近くに住む職員から駆けつけるよう体制を取り、地域の公民館にも協力を依頼している。食料や水、ポータブルトイレも準備されており、家族にもマニュアルの説明を行っている	系列施設と合同で昼夜想定での訓練が行われている。防災マニュアルは、火災時の他、地震や水害にも対応したものとなっている。公民館長を通して、災害時には地域の方への応援依頼を行っており、災害時に地域の方をホームへ受け入れる体制も整えている。水や食料品、米等2日分の食料は常時準備している。	

自己	外部	外部評価			
		自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容		
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者の目線に合わせて、ゆっくりと話しかけ、訪室時は必ずノックをしてから入室している オムツはトイレの中に置き、居室の見えるところには置かない。また、交換時はドアを閉めて行う等プライバシーに配慮したケアを行っている	職員は常にご利用者の自尊心や羞恥心への配慮に努めている。言葉遣いに気をつけ、上から目線ではなく、ご利用者の目線に合わせるようにしている。帰宅願望があらわれる方には自宅にお連れしたり、返答の仕方を統一するようにしており、“ご利用者を1人にさせない”配慮も続けている。	日頃から言葉遣いに気をつけているが、今後も引き続き、職員全員が言葉遣いを振り返り、声かけのあり方を検討していく予定にしている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その人に合った言葉でゆっくりと丁寧に繰り返し話をしている 難聴の方には、補聴器や筆談にて話しかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合わせて、食事や入浴をゆっくりとして頂いている。体調や天候、気温を見ながら、散歩や買い物、ドライブ等時間に追われることなく支援を行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の更衣や入浴準備時の衣類選び等、自分で選べるよう言葉かけを行い支援している 買い物へお連れし、自分で好みの品物を選ぶことができる様支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳や下膳、食器拭き等利用者と職員と一緒にやっている。利用者の好みを把握し、食べやすいようにミキサーにかけたり、食べられないメニューは代替食に替えている。また、バイキングやお弁当会、鍋会等を行い気分を変える工夫もやっている	毎日の食事はプランターで収穫した野菜等も使い、ご利用者の希望や職員のアイデアで、土鍋での鍋料理、たこ焼き作り、干し柿作り、キャラ弁等に盛り付ける等、ご利用者に楽しんで頂けるように工夫している。おやつは、ほとんど手作りされている。	鍋会やたこ焼き等の行事は職員も一緒に食事を食べているが、今後は日常の食事の中でも、職員も一緒に食事を楽しんでいきたいと考えられている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士作成による献立表にそって、調理を行っており、カロリー計算も出来ている 居室への配茶、おやつ時食事時等で水分補給を行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入れ歯は洗浄、消毒、うがいを促し、就寝前に介助している		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各部屋にトイレがあり、自分でトイレ使用が可能な方は、自立して排泄して頂き、排便、排尿表を作成し排泄がない場合は、トイレ誘導を行っている	必要に応じてトイレ誘導の声掛けを行っている。職員全員で話し合い、ご本人が心地良い方法の検討を続け、リハビリパンツを使用されていた方が布パンツに変更できたり、事前確認で紙パンツの使用を減らす事ができた。失敗時も、さりげなくトイレ誘導を行い、汚染の服等は人目に触れないように配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	強度の便秘症の方には、バイタル測定を行い、下剤や座薬を使用している。また、食事やおやつ時に便通の良い食事を提供している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴前のバイタルチェックを行い、一番浴の希望者が多い為、一番目の入浴者は、順番等考えながら支援している。入浴拒否された場合は時間をずらしたりして支援している	お一人ずつゆっくりと入浴を楽しんで頂いており、昔話や歌を唄って頂いている。肌が敏感な方には、家族が持ってきたボディーシャンプーを使用されている方もおられ、身体状況に応じてリフト浴の対応も行っている。入浴を拒まれる方には時間をずらして声かけしており、菖蒲湯や柚子湯も楽しまれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食事時間をゆっくり取り、利用者のリズムに合わせて行動できるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬リスト、熱計表により、全職員が入居者の状態を把握できる様にしている。薬の変更時は、個人ノート記載し、全職員が変更確認をできる様にしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	買い物やドライブといった機会を取ったり、月一回の他セクションとの交流にて、ゲーム大会等支援している。また、干し柿作りなどの支援を行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事計画を作り、全員、2~3人のグループ、個人別に分けて、季節に合わせてドライブを取り入れている。外食、町内行事(神社の夏祭り)、十日恵比須(年の始めに)等地域交流にも参加している。自宅付近へのドライブ及び散策、	ご利用者は、ホームの隣の事務所やゴミ捨てに行かれたり、公園などへのドライブ、地域の公民館祭りや神社の夏祭り等の地域行事にも参加している。ハウステンボスや西海橋、自衛隊資料館等にも行かれ、九十九島動植物園に行かれた時には、タイミング良く孔雀が羽を開き、皆さんで感動された。家族交流会の外出も行われており、家族とお話する機会にもなっている。	



自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に出かけ、好きな物を購入できるように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	小包や手紙が届いた時は、御礼の電話をかけられるように支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境整備、室温調整を心がけている。誕生会、ゲーム大会等の写真を共有スペースに貼ってやすい空間を作っている。入居者の方が撮影された写真も貼って、皆さんに見てもらおうようにしている	ご利用者と作った季節ごとの掲示物が貼られており、季節の花も飾られている。ホームのリビングや廊下にはソファが置いてあり、ご利用者は思い思いの場所で過ごされている。温湿度管理も行われ、加湿器も使用している。音にも配慮し、テレビなどの音量調節も行っている。隣に有料老人ホームが建築中であり、景色の見え方が変わってきているが、海を眺める事はできている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールと廊下にソファを設置して、自由に座って話ができる様に対応している。窓際に椅子を設置し、夜、夜景を眺められるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者にとって思い出の品、仏壇等や趣味の物(家族の写真、カメラ、編み物、花)を自由に置いて頂く事で、安心して居心地よく自分の部屋だと実感して頂けるような工夫をしている	ご利用者に応じてベッドを使って頂いたり、居室に畳のスペースを設けて布団を敷いて頂くなど、ご自宅で生活されていた環境も大切にしながら、居室作りに取り組まれている。家族の写真を部屋に飾られたり、仏壇やタンスなどを持ち込まれている方もおられ、それぞれの方に合った居室作りに取り組まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	L字バーを持って立てる方には立ってもらい、ご利用者が持っている力を出せるよう努めている。又、洗濯物を干したり、たたんだりすることや食器拭きをして頂くことで「出来る事」「分かる事」の保持に努めている		

事業所名: グルーポホーム やまづみ荘

作成日: 平成 24 年 2 月 27 日

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
 目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】 注)「項目番号」の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。					
優先順位	項目番号	次のステップに向けて取り組みたい内容	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	36	一人ひとりの尊厳の気持ちを持ち、原点に戻って、言葉遣いに注意し、行動を振り返る、習慣を持ちたい。	入居者様、ご家族様の立場になって、言葉遣いに気をつけて、対応する。	尊敬の気持ちを忘れず節度ある態度で接する事で入居者様、ご家族様との信頼関係の構築に努める。	2 ヶ月
2	40	入居者様と職員が、一緒に食事をする。	一緒に食事をする事で、会話も増えて、楽しく食事できる雰囲気作りをしたい。	入居者様と一緒に食事する事で、嗜好の把握が出来、食べたい物を食べる事で、食事への楽しみを見つけることができる支援を行う。	2 ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月